



庭訓往來繪抄

上



てい きん ことらうの 庭別社来終抄

槐亭賀金著

庭別社といふ証の簿籍事氏の八んふとあり孔子をふまわつてありて孔子御成りてこれに
後世に流せりやこれと事なきんこととありて孔子の御成りてこれに

春始清夜向貴方先生夜中ひ年

春の始の清の夜と云ふは、清夜をいふは、一室中清静の方子と云ふは、清静の方子と云ふ

富貴万福終以幸甚く

富貴万福終以幸甚くといふは、富貴万福終以幸甚くといふは、富貴万福終以幸甚くといふは

折歳初朔拜者

以朔日

初月の朔と云ふは、初月の朔と云ふは、初月の朔と云ふは



くろんきんの ついでとぶきりてきまらまのころ
元ころ決りきりてきまらまのころ



被泣僧人くろんきん遊く間心
被泣僧人くろんきん遊く間心

その月の夜びい月の子の目を知子の目といふて人く被泣おまてお松を引てこく



変引似谷常志換死
変引似谷常志換死

長松いふとせと強るりのわきまをよまのふれまうんとの義

園小標



遊日影願宵奉
遊日影願宵奉

目とて遊日影願宵奉のあらうせと世のあらう

意い平乃又
意い平乃又



揚弓雀小
揚弓雀小

揚弓雀小のあらうせと世のあらう

弓勝負
弓勝負



芳掛小津之令
芳掛小津之令

揚弓雀小のあらうせと世のあらう

草原園杓く遊三く九手交
草原園杓く遊三く九手交

岩小らの名と二尺七寸をてはすの柄をゆふ物一はるは立ていりてを掛る場のゆふ

八的考曲節
八的考曲節

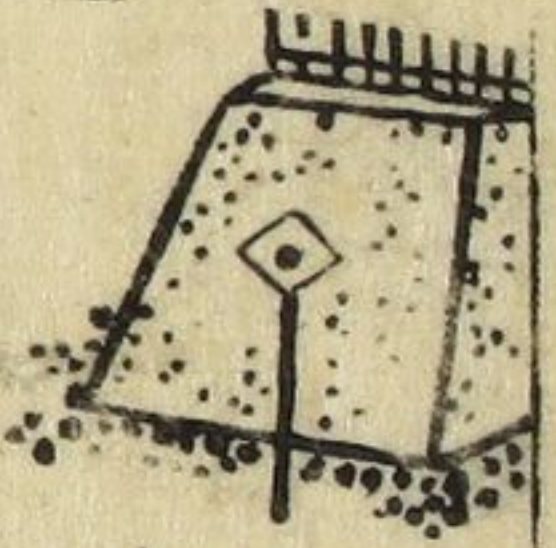


近目
近目

近目のあらうせと世のあらう

うちつきけいえいこまを
打後經骨く

うちはつきけいえいこまを
打後經骨く



あんどうりの
守常

あんどうりの
守常

いせ せい ひきのこら 一や 考りく
射る弛挽を考者少く

いせ せい ひきのこら 一や 考りく
射る弛挽を考者少く



ありて あり りん 考りめく 考りく
有法誘引思ひ立給ふを考者少く

ありて あり りん 考りめく 考りく
有法誘引思ひ立給ふを考者少く

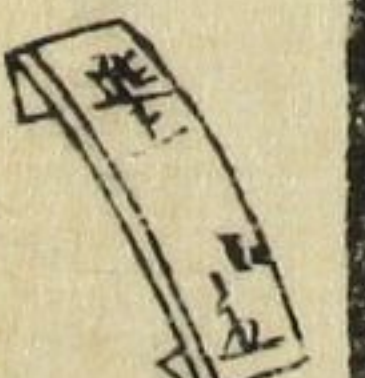


あんどうりの
心奉辨多考の考者少く

あんどうりの
心奉辨多考の考者少く

のつらきとらきくむわりのふぐりかまきりく
之次委不徳府も免忍く薄云

のつらきとらきくむわりのふぐりかまきりく
之次委不徳府も免忍く薄云



あやう ぐらん りんり
正月五日

あやう ぐらん りんり
正月五日



さきりんのこら 考りく
左後厨及系知負

さきりんのこら 考りく
左後厨及系知負

まん しょう
禮上 石見守殿

まん しょう
禮上 石見守殿



ういわんの まん けいこま 考りく
改年く考度上は法意山考者少く

ういわんの まん けいこま 考りく
改年く考度上は法意山考者少く



日出夜貫の自他無常

日出夜貫の自他無常

千万くく花芳丸



披見

之処



青陽遊宴舞珠

重山雲凍早晚



落毛履

忽披



帛才傳神仕と変

自他加障不更く玉也



百々達者



鬼をえり上る

一も軍下令同道也



但

てんぎの世の村の宛売とてをさぐりのまじり

ちとやひきめ とうり
的々其目等

甲斐の桑園の根の多きをいふ



ぶさこ ちんり
至沙汰俾

根の多きをいふ

入い

遠く裏の



一種一飛を飛中

同子ある一飛を飛一飛を飛中をいふ

裸後緒引出物

并中巻の取りぐまも刺緒をいふ方ちやる虚巻の



うそを飲



内へ被

まうき符に被はるる

得はまろ事物忘る間

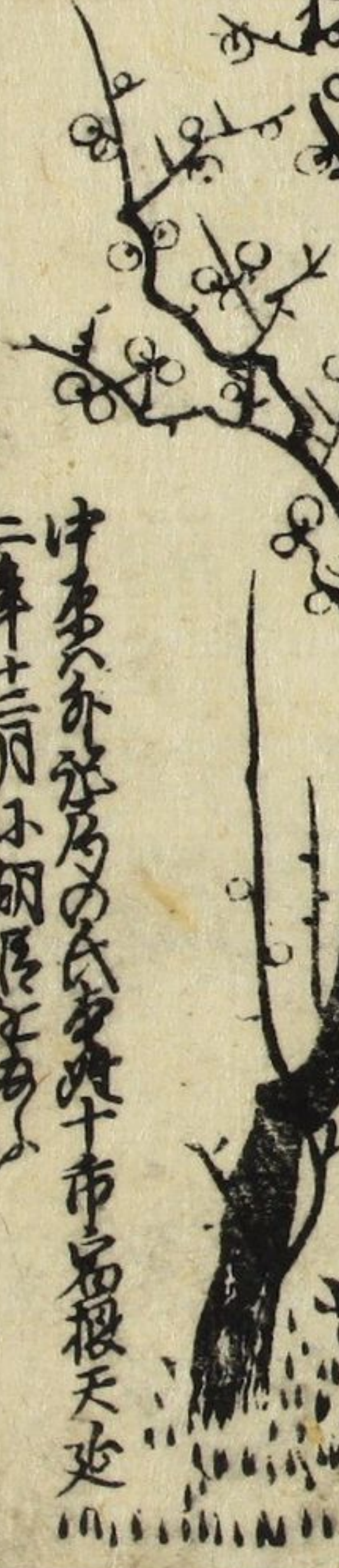
あつちやうのあつち

及二二保相面得る時

とまふんちやうの保相面得るまのあつちつらうとよまうまう

薄く

きんげん



正月

正月守はる

中巻の保相の氏を説十市宿根天延
二年十二月小胡屋とあつち
いふそのうまからえらう

きんしやう
謹上

げんさるのんのちうどの
源方源門尉殿



源方源の尉殿に奉り申す事

めんさいののちちうせり
面拜之後伴迄

めんさいののちちうせり
良久人送

こんしやう
恨如山



しんしやう
竹町下敷志方

けいけい
外儀似隔胡越



くわん
猶以平

くわん
悔く



くわん
作院雲林院

くわん
濃香芬々自己感也



くわん
暖歌

くわん
有肝山標



くわん
困落交條也

くわん
柄繁難然止々世節也



いろどりとせんとしくおらうらんらんりんをや
光陰日月日のところといひん光下好士といふあふ



花

下好士諸家

光陰日月日のところといひん光下好士といふあふ

似鹿遠取う花を

英系ふらうりきてあふとまてさぶらぬ花の死ん

僮僕組合朝

花よりいほふの山辺わわこうきて



先山隣之

まづきんアんの

葉梅

はなはの丹ふ

ね仁如雲

まほうけんてくくもの

名をいふ歩行の候男をいふ

かまふとく人のまう群むらまうとていへし

研心乃道と花は天侍形明後日

りどしりりこさのまうのまうめつめていのうとあそまうとあふ

山同心出と本亭之連一奇

じどうあんきあうらあんのめうありまん



家道和歌を著者

むう一博博叙文より名集う人のいふまてぬま



一雨傘

いぢりあうさい

子有法誘引

く の えいけいなくきよめりふ

句く 休同 雨亭山

かみけらしきしゆけいおぼたふんめきやうい

小竹筒 束之 後 是之 隨身

天此くたふれととのすきまきまのまじりもまきまきまのまじり

現懐紙束之 後 是之 隨身

ハまぬつらふしきぬきしゆけいおぼたふんめきやうい



つたの炭してききおぼたふんめきやうい

破誘

如行 公 庭 之 執

その伏家の時より落るる庭のまじり

併初 未 今 之 次 負 持 之

後初申うるとい候中申うるとい申うるとい申うるとい申うるとい

二月廿二日

きん ちゆう

種上 大 盗 物 殿

大盗物殿の種上小おぼたふんめきやうい

紙之 紙 上

竹子と書い若たふんめきやうい

弾心 忠 之 長

げん ちゆう

強心大おぼたふんめきやうい

まじりおぼたふんめきやうい



欲自是令事處處



處處

預見商



由因公之

赤令之折花下令奉



花令風月

好士之取字

待方後法之未教來奉之方之

也勿進之伴相

者方

後苑度茶花深

山麓樹之橋

城以園愛

美麓の樹の橋の合

城以園愛



暴風也

暴風の源風とも

わらわらうらうらうらうらうら



若今明き際

いふやうかき澄ふちやくとりふ

有暴風森雨

もんうのきもめたり二日以上のあせり



垂念

う率



同と行時急反

人は天由夫神人命の後世入るるの

不念也

かた鏡を食のあはれは

和舟支能作

人は舟のたはら海を渡るは舟

人亦亦令く良

ひとまらむわらひこのこふうと

未幾長

長き後かたは後世

秋種方種改混本打向

あきくちかへーごうー秋改の長あか二十一文まへはのちとらふ



杏将之風情

あけつものふせい



福廻傍

ふくまわらば

題打鼓

うたひうたひ



落頭之辨待聴

おちあたまのしらべまちきこ

自ら心波常家にかゝるの



旧流のまゝに序表は顔傍級顔好

之質 頗如猿猴似人同



實人精能



然勿と吾知人

數一分も殆ど指後日之恥辱



物筆致有筆致不



女賞

未練之間



内府定之及

赤面欵



竹青用美之序

度言終也

承外花



下紋如形替

古



公私忘化

奉必く薄く

奉必く薄く

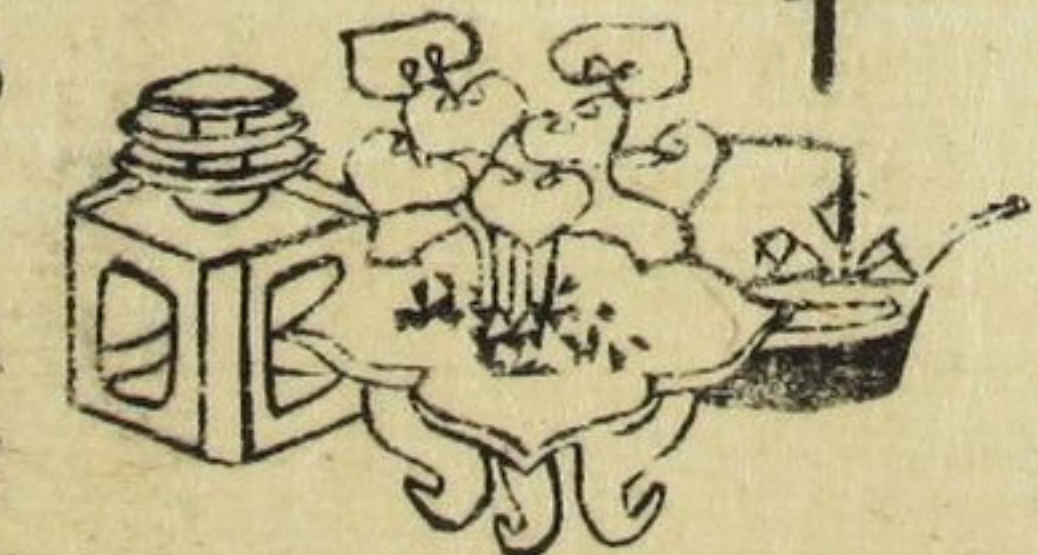
二月廿二日

監初源

謹上

彈正忠敵

秋云於今者謹奉



猶以孫

慶賀

重多々家門



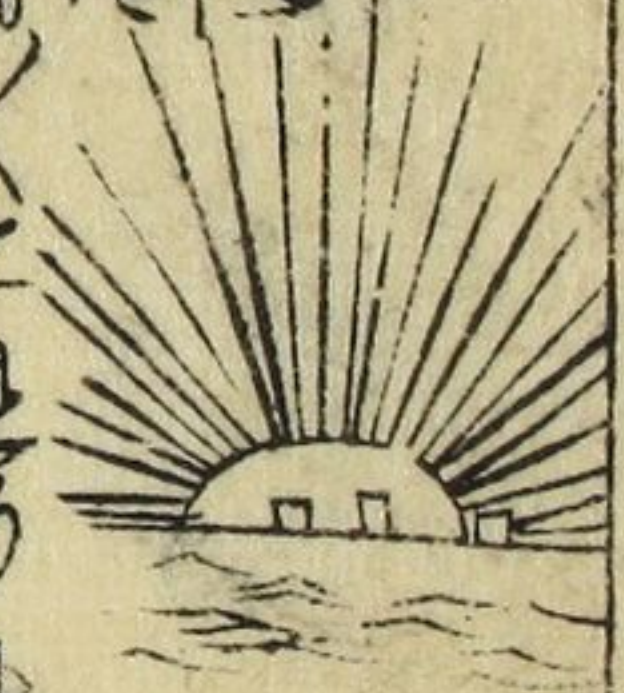
繁昌

英訓繪抄

戸言

自化 じけ 自化 じけ 自化 じけ

早 はや 早 はや 早 はや



早 はや 早 はや 早 はや

系 けい 系 けい 系 けい



系 けい 系 けい 系 けい

遠 とほ 遠 とほ 遠 とほ

神 かみ 神 かみ 神 かみ



神 かみ 神 かみ 神 かみ

混 まじ 混 まじ 混 まじ



混 まじ 混 まじ 混 まじ

沙 さ 沙 さ 沙 さ



沙 さ 沙 さ 沙 さ

忠 ちゆう 忠 ちゆう 忠 ちゆう



忠 ちゆう 忠 ちゆう 忠 ちゆう



早 はや 早 はや 早 はや

早 はや 早 はや 早 はや

早 はや 早 はや 早 はや

とりちりいげの
取帳平



あんきよきい
文書無例納

ちりのちりいげの
法之文書之長進



ようん
容隠之輩



さんでんの
隠田之族内罪

しん
科之進交名



しん
且东地

きゆうの
業之奉



く
桑相水旱之奉

しん
湏計映迫之地及下勢



しん
有下閑地之地

しん
振居農人

しん
合室及之



しん
於下用水

のしりあひ
くぼく

くぼく
おとん氏を復て終

園地并溝之



佃作心地

く初春除田地耕熟田

田此うつりてきてまのこころを云初春の春の働ふくを

多令下以行を春耕

の高低初田と外細くくたふく秋とてせざるなり

佃作



細務卸木

ありまの春也葉子てあ



農具令耕

この金箱はたうい移をぬり

化致種早稻晚務木

おぼとつりて種をさうりててまをてあ



西収

ゆんりて

初之種着法所治時次島事考考麦

このべー種かつのもうのきとくさつてふそののこと



大豆小豆大角豆粟麦黍

山崎宗信

(十五)

釋考



酒如山富之乾懸下

あつひやくちのくんじやくふべい
あひやくちのくんじやくふべい

裸素八加比



毒毒実持

くわい(年貢)のあふゆい(地子)

之節



政事存自由依

あひやくちのくんじやくふべい

佐次津成道作事



不丁

あひやくちのくんじやくふべい

有各別作事を以



早に方

あひやくちのくんじやくふべい

構大塚



之内之園楽築地

あひやくちのくんじやくふべい

株門庵は有科酌と夜

あひやくちのくんじやくふべい

於冬門と古山麓門之間



三川

(十六)

有計く復殿を

有計く復殿を

青板庭席

青板庭席

表板青月待は厩舎取園

表板青月待は厩舎取園

が表く方

が表く方

学文取公文取

学文取公文取

厚き賞

厚き賞

沖門渡殿を

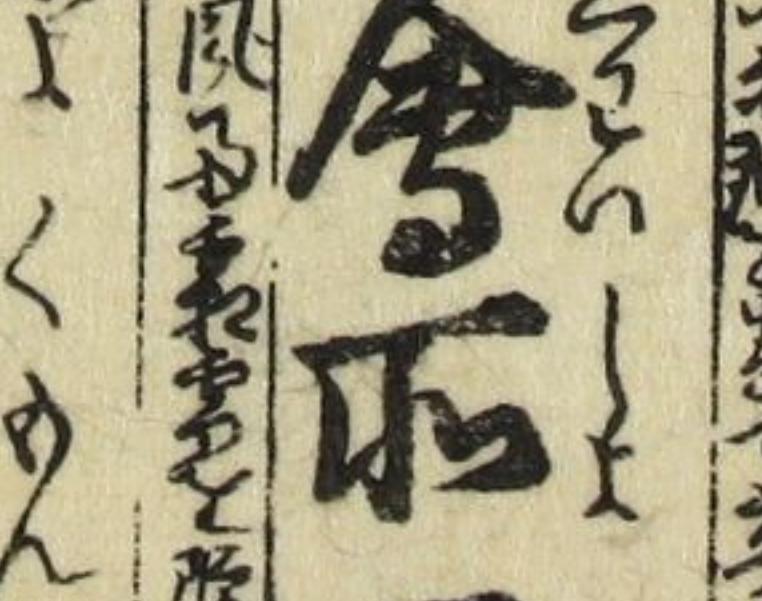
沖門渡殿を



表板青月待は厩舎取園



学文取公文取



厚き賞

政取勝所表取安殿

政取勝所表取安殿

取庭に取庭

取庭に取庭

と序表青月待は厩舎取園

と序表青月待は厩舎取園

向道は懸馬場

向道は懸馬場



表板青月待は厩舎取園

学文取公文取

厚き賞



学文取公文取

厚き賞



学文取公文取

厚き賞

度詞繪本

同之築的山人

のる様也西の津乃木の居る



東面之棟流

西の面をのり月を流す

鞠之坪は直に奉養

地から湧のりる酒多りの山に酌とくける酒多



果水

あまきつゝのま

立石築山室乃

をありにむすけのまをのりしよま



紀賤生

葉小柳柳ふ根乾ふ

随方角

ねと極とをりふと室の



舞舞忘と花可

まふ後山半り水とのふたのまある

相計と相續客殿

あいそららるるをのりつらとま



丁立

仏像位をい

松皮建月持佛堂の心亭庵室保聖

母並まをのりれらるるの看破とるの居る西の面をのり

先ん佛堂也傍又之構と花

その傍に佛堂やとる花とるの

文庫

あまきつゝ



其中間を屏也

そのちうげん

文庫

十一

こうえんのよめくーしきのさけ
後園樹木は發行

果樹の植木には發行のさけ



せんたしの
茶裁

のきふ植る

さくあん
茶室

竹ありあき



あまのさけのさけのさけ
同て月植るを作

植るさけのさけのさけ

くさくさ
下條くさくさ

くさくさくさくさ



くさくさくさくさ
くさくさくさくさ

くさくさくさくさ
くさくさくさくさ

くさくさくさくさ

くさくさくさくさ
くさくさくさくさ

くさくさくさくさ

きんぎょ
君く憐る

きんぎょくさくさ

きんぎょくさくさ
三月七日
くさくさくさくさ

あんな
行政的般

あんなくさくさ

さくさくさくさ
被作下條くさくさ

さくさくさくさ

竹山考用山



竹山

古今書



古今書

修竹堂

修竹堂

有書令撰乃有日及辰



有書令撰乃有日及辰

耕作業最忙也



耕作

素或終矣



素或終矣

中沙流人本依構中



中沙

事或終矣



事或終矣

事或終矣

事或終矣

ところのりんよめとち
七頁頁家小

つよきくり
尋獲走

くふちの軟ふそこりち青い
下中浪遊也



形は原の傍に海邊の松と腐る物
次巻全巻初巻

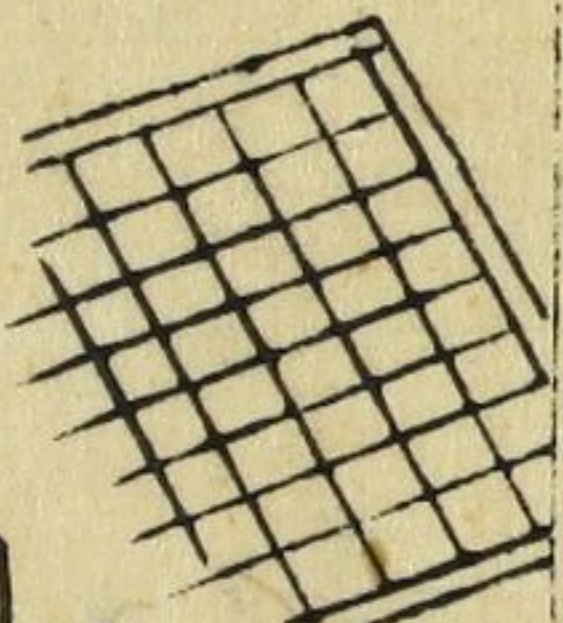
ちりちりけし ちみぎ しいききざいぬぬ
板長押板小板装材本を

海邊の海の上を流る板は板の形に
板は板の形に板の形に板の形に



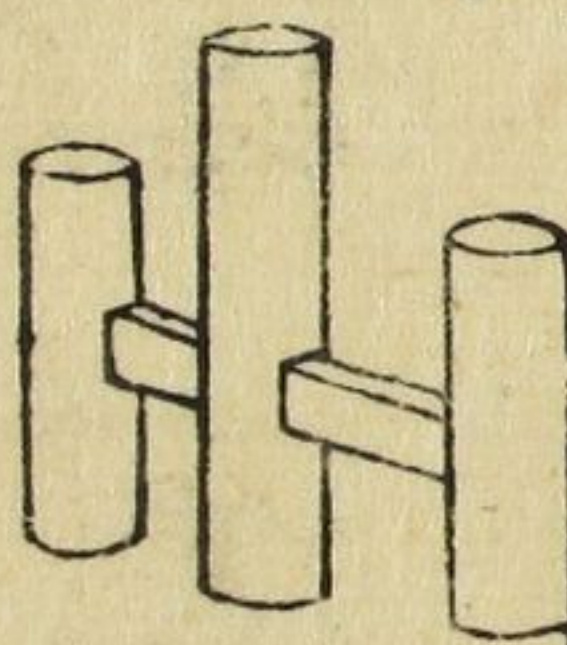
のんのうぎきき
門冠木扉装材本唐唐

二扉装材を打く一ノ具



二扉の扉と寄装材の板の門の左右

けんきりひきまこのさあびお
板の下あさごおんのとれ板とひひ



かきまをの柄より中

とまき こまひ たふ
寄木本舞殿丸閣板巻板

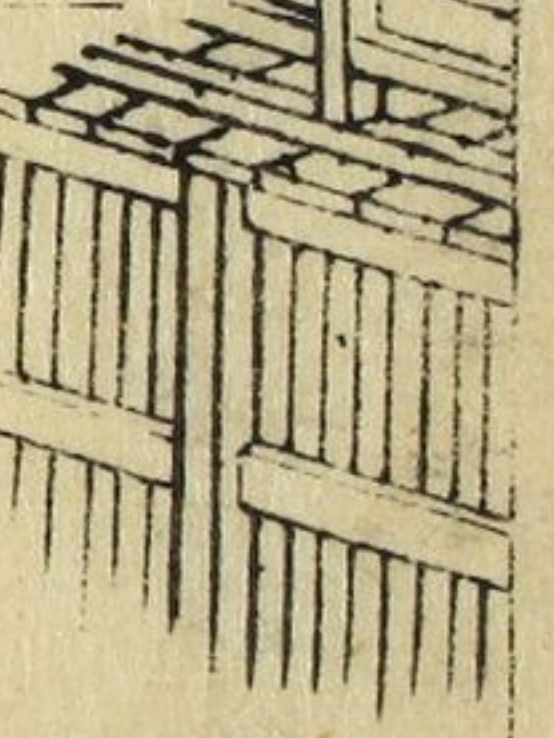
結句しめをきの板と門の流板の因ふまを一扉を材も爾た



三巻の繪

くぎ えんのつろちりら
角木板縁板

とまき板縁板よりしらの上の板を

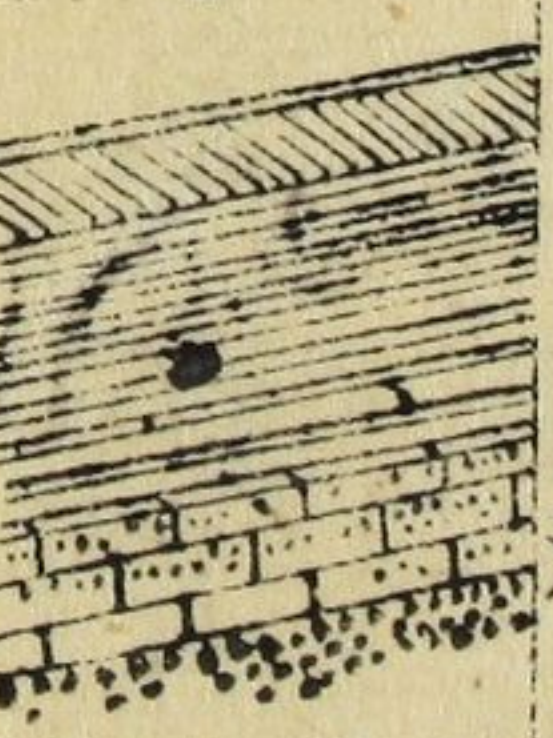


ものこ
養子唐牆

板よりくぎの板よりそれか

さとい ぐき ー ば ぐき つい ぐき ひ ぐき
透牆洋植洋植洋植洋植

ちまきとさといのつらふの板のりさうぎのり

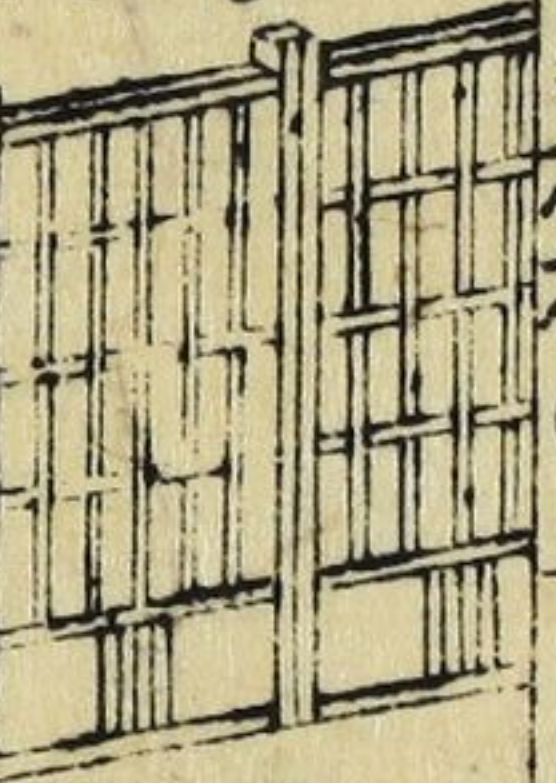


杉

落葉

しゆうり づ
障子厨子

本破風のちふけりもの



ちとらうり
藪障子の戸

障子のよき番は極々株まのうこ

つま ー ざうとさうりりうらん
妻戸鐵戸安入合戸

ふさ板をよもふさのり板より極々板より極々



字色

さき わい づめ
板育足壁

ちの板の板ありてふゆ

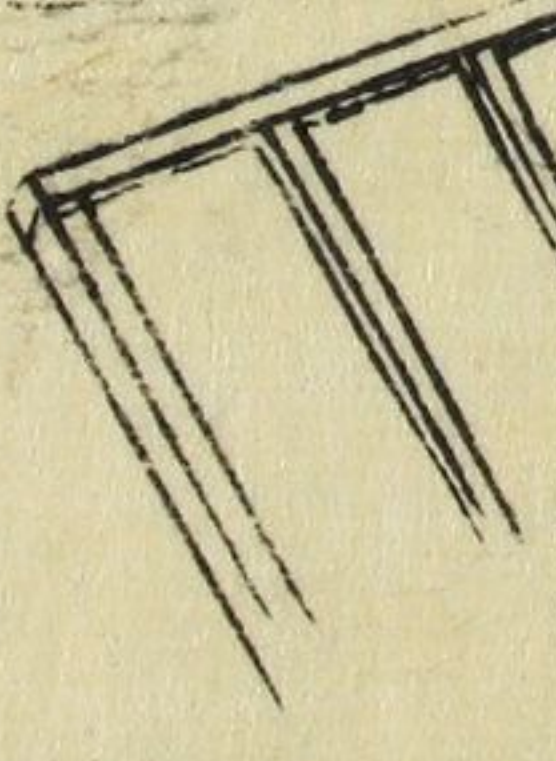


てんじゆうのふち
天井縁障子

ふさ板の破風ふわうとせとぞ

ちのみむあひ
骨板植組押枿養木

お花は骨板の板のりさうりかこきりうる大板縁板



ひ
枿

板の

そ まあ めん ぶき ちの
骨木し草池

うすちをうゆる板をよののり板ふ

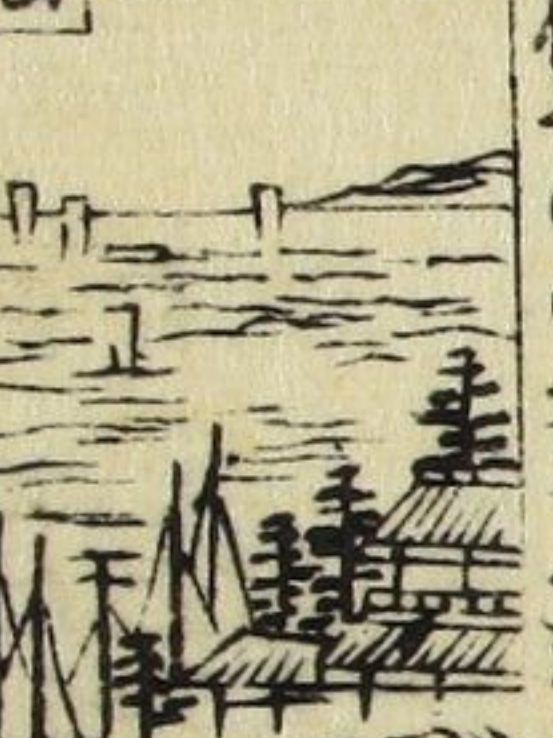


ぐさく
具置き

竹を編して通をなす板を

つ
津湊

用る丸板とま



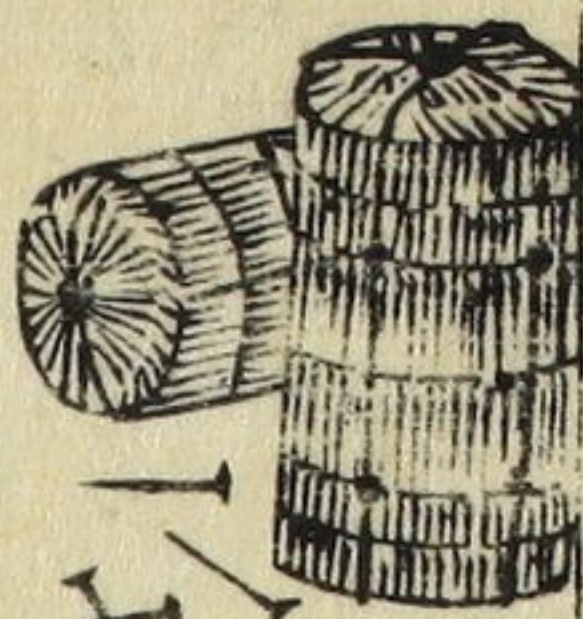
あむ
下合買々山造舟

舟を編いて舟のりさうり

まじりのこぎりもせのあしひか
諸派所共



さうせいのこぎりまめ
造他釘金鉋



ようぬーきとつとめーまえーん やとーめ
用素炭鉄石居飛治と
厨子の後をまきまき横公食のとりみ芥の保木のしよき

つらーまじと
造り出也



おせよのあまうまのりあうくの
作生察修り機

の工之痛の和名つらきと
ごいふなきまめーらごいふらうや
大工と下巧通



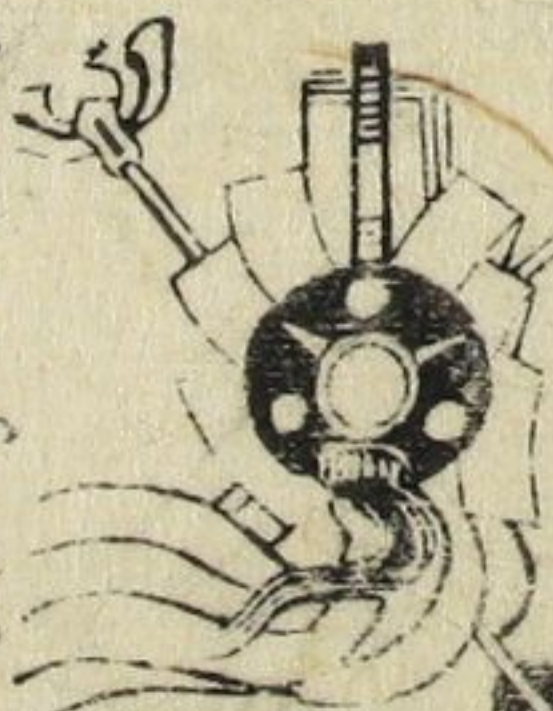
てをのぶていーづえ
新造居

ぢららききょうん
板を積地



むいわけのまぢあぢの
株とまを目と

おんそさんやうのうらふ
深法陽寮とて定下



うきお
次

あめりーのこ
樹木事



むめりーまめ
梅樵木場梅

びーこおんぞらりうきあ
枇把香栗材梨子



あひらうら
椎橋

の白裏は仙道のなりあうの所まの番ーん初の

板橋さくらば



樹漆しき抽母ひき母はは子こ

橋雲はしぐも州橋しゅうばし今いま梅うめ抽ひ母はは子こ

公こう之の公こう

平ひら及およ公こう之の公こう種たね山やま車くるま



日ひ之の日ひ

記き之の被ひ作し下した也なり



諸しよ事じ種たね牙が

中ちゆう入にゅう子し細さいい

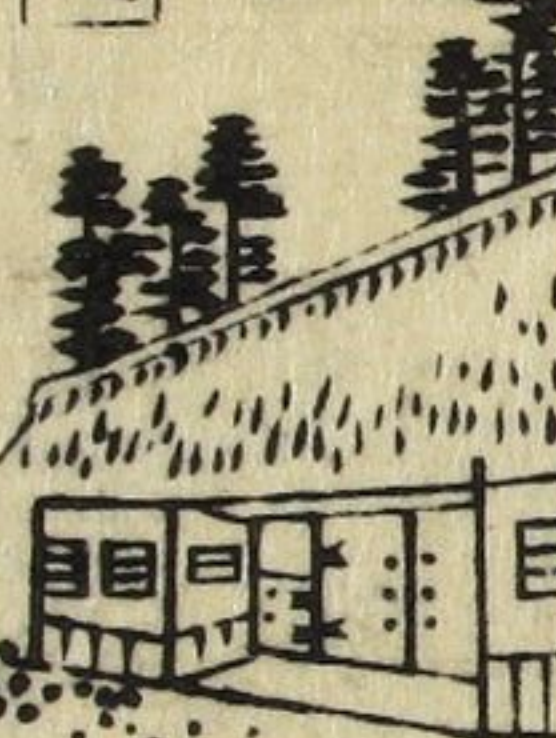


中ちゆう願げん田でん地ぢ去こ氏し

名な之の店てん官くわん未み存ぞん社しゃ公こう之の奉ほう之の奉ほう



未み落らく店てん原げん



責せき伏ふ之の後ご遂すい

糸いと上じやう之の下げ入にゅう之の旨し



下げ令れい披ひ

之の下げ令れい披ひ

ろくろのありのあり きやうくきん げん
齋給者也 忍く 澤之



言つて押込と云ふに放りうひと云ふはうらまへ

さんごうと云うさんま

さゝぬんのと云うこと

二月十三日

方鏡の耐橋

徳川慶喜天皇天保八年上旬萬葉集を詠じて
ゆかりの地あり

進上

斎藤允殿 法返奉



久石齋堂門之問名書を奉り行

徳川慶喜天皇天保八年上旬萬葉集を詠じてゆかりの地あり

中事井

おんごんせい



作古願身仍

その他以西のいりてんせんさんごんごん

之匠惣良之電

おんごんせい



朝夕之

おんごんせい

煙厚

おんごんせい



百姓門 東西業集

おんごんせい

仁政之甚不深也

おんごんせい



賞罰

おんごんせい

げんぢうちてまりひとのくんびせ
歳重知人々堪辱

あつぐふとく寛房のひろくたむちむちのり



りりとして
理非

分派紅物々軒車々方氏西岸之

せりくせぬ花嫁の志を失ふるちとくまおのんらりちて急へんなきをりみ

公存寛宥々扶強必好



吹毛求疵の毛の渣ごみききてあつらぬ疵とんいごまをり

氏之院強々下不願静澄々

是の政及むまうきりけさ



うつてあつらぬ疵とんいごまをり

東也

梅村葉山



石之必毛求る意々

夜は不夜夜下

あのを毛と必夜を云うよりたをこま



市町

身行

遠くの高箱



廻船定費津英村

山邊捕り行

たふ魚とくまのり 船場の郊外



時收々幸

及言終也

さごめてらるる...
室をむききり

江戸の街なり 俗にばらけとりのり



りちまちハ
市町を

通子小路今様月世極

枝だかりおえの菓子や酒をのめるなり 瓶詰の二月の

箱布を裁縫菓子

返状をとりお裁縫師の金銀と渡して裁縫を

買ぐ紋帳

今月の大工の棟梁を著述する



下被相行

大工の棟梁を著述する



有賣



振屋兼て飛流物師

よくよく是を令破物師の令のきり 職科を今月の棟梁

巧道番道平道系

源の今月の棟梁 紅源の今月の棟梁



令浪



洞細工

委之用く



緋捲深殿綾織

くまの物師の今月の棟梁

登雲翔伯尔牧士

あまの物師の今月の棟梁



炭焼棋

棋師の今月の棟梁

三川會社

三十七

廣言類聚

文抄物師



藤枝師塗師

蔣珍師唐紙師紙漉



笠

張葦葦



足取人水之指取

漁客海人朱砂白粉燒



櫛安



馬帽子後高人

沽酒兆造



弓矢細工漆象

七宝池青師及塗

将人



後樂田乐獅子舞

五川會少

二二八

傀儡師



琵琶法師懸山子

合のう初世宝持格と云

思ふ法師もあまひの政とくありて

傾城日指の遊女夜更の案



けいせいあしびやうのゆりぢやあんのとめがら

系醫師陰陽師



吟師俳師

あまひあいのせんぢやう

あまひあいのせんぢやう

摺絵抄師



式部相僕之族

あまひあいのせんぢやう

あまひあいのせんぢやう



或て禪律及傍り道徳也

碩学形意密宗



学は修

の法流月がやくは後を因縁の法は修業也

くせいのしんぢやう

強行者知強



其傍若野

げんのぎせいのしんぢやう

あまひあいのせんぢやう

人紀典仙經儒者



明法師

あまひあいのせんぢやう

あまひあいのせんぢやう

昇る宗流といふは隆公宗承の隆大師の法流

碩学、修業、小僧、一、

ぎやうの ぐく
ゆく 学字

人せりの教養の天を宗と



しんり せうしやう
待舟宗山道法

宗山道法

とよりぎ けんしやう
上より 賢聖賢明師

学より 賢明とある人せりの小僧の末流



一念

くわいのめいそく
多念各傍

二九中 大念のそがしん



けんじんあまの
持形不勢沙汰

持形不勢沙汰

あんせい せうしやう
人 漢書草葉子 書まゝの石版名能

漢書草葉子 書まゝの石版名能

およ 年
書

本紀更記

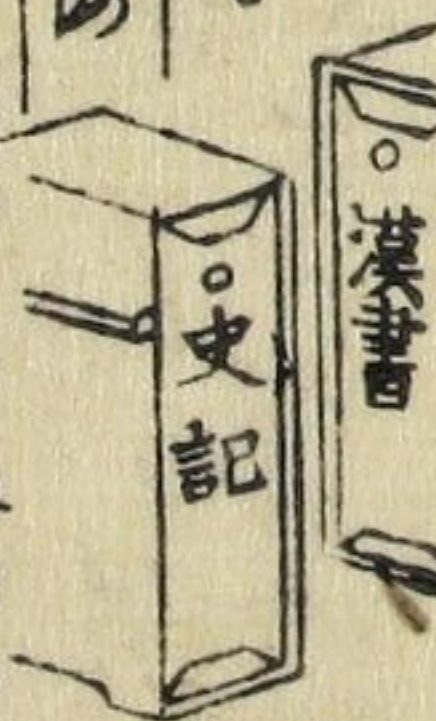


おん ド せん ド の せう
棟字海字を著者宏文

海字の教仙神のや海字を著者宏文

りころののめんせん
利は者森古傍賢能

明らあてんせん 金一仏一經とて修めまはる傍賢能



こまろ せう
魁給

魁給

ちうやんら
仲人考

おん せう せう せう せう



おん せう せう せう せう
宏文如振唐有唐

宏文如振唐有唐

のやうとせべい
う 漢字不官位

漢字不官位



せう せう せう せう
公私と夜毎事

公私と夜毎事

ひまでめちをきりくまんげん
初後日おとく津

つと身仲人のおの孫奴をさるものことあり

卯月宵

卯月の宵

花来女心

花来女心

薤

六服

彼下り有長珠貝徒死

彼下り有長珠貝徒死



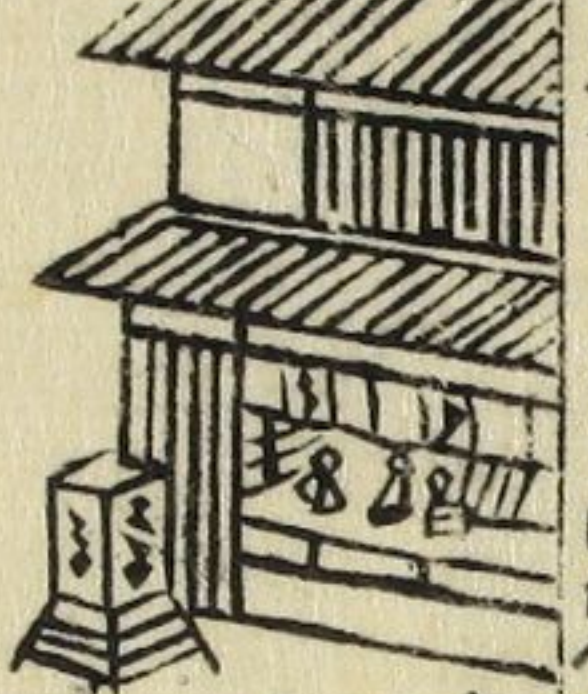
然其乃作事書

然其乃作事書

藝文七

藝文七

疋之店



諸國商人後客宿

諸國商人後客宿

正運送賣買津

正運送賣買津

悉令送

悉令送

乃以交易物令明公私河色

乃以交易物令明公私河色



竹幸如く外



定活は公の

臨時保夜



月車と云々

奉願受不之透遊丸系



町人渡商人



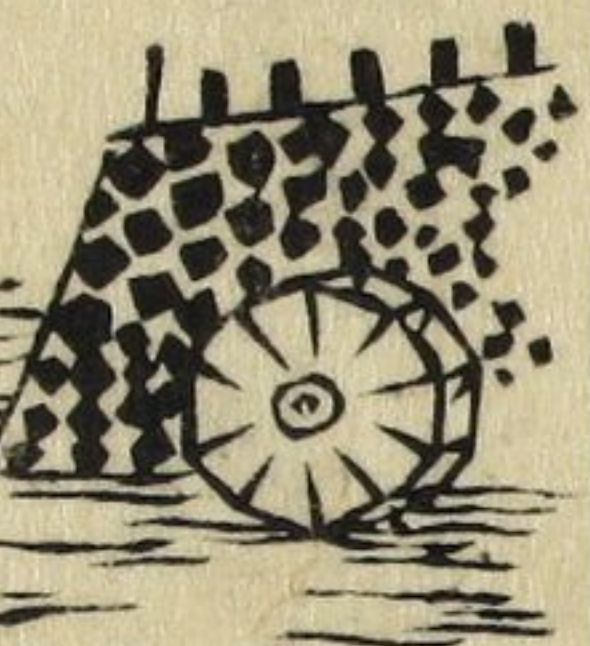
鎌倉港杓宰

府を食物家並の庫証取



渡川

尻刀祢



大津坂をまづ借る病

白川車借



泊く借と澤く

替洋浦く関丸



同割符

進とく

多水とりのく練とく



只御取運送とく

六條洛陽の南に洛陽もも六條十連の

次不食人疲大津練貴

肉之格の清とくまま大津西人の海物とくま



六條

洛陽音

深為栲櫨組

の葛氏に地小糸とくま



字活布大文

おせとくま

箱馬丸馬慣子

陽之とくま



室町伯楽

おせとくま

くはつ巻

いとくま



暖縁大巻を巻

文の巻とくま

刀さる利刀大糸新

ありとくま



小杖炭

つは地炭

小葉袋

こがのまのま



味敷扇仁和吉眉

はたけ扇

他師小路針鞍とくま

つらとくま



このうらどめひうらまのうらうら
硯 硯 硯 硯 硯 硯 硯 硯 硯 硯

硯の核扇師之に和も眉他(梅)心(山)有(好)諸(計)の

こころあとののりうらうら

公た出外加賀絹

五折裁田(掛)あるを(出)ひ(わ)く(る)本(の)り(は)六(折)の

移好(好)美(法)と(下)出(度)長(丈)

と(ま)い(と)ら(る)指(指)の(指)成(一)本(の)両(半)不(換)取(の)成(金)も(成)取

襦布

下の松(も)も(移)好(ひ)



丹後(丹)油(油)肝(肝)練(練)上(上)総(総)

丹(後)油(油)肝(肝)練(練)上(上)総(総)の(丹)後(丹)油(油)肝(肝)練(練)上(上)総(総)の(丹)後(丹)油(油)肝(肝)練(練)上(上)総(総)

西(西)山(山)

西(西)山(山)の(西)山(山)の(西)山(山)の(西)山(山)の(西)山(山)の

丹(丹)後(後)

丹(丹)後(後)の(丹)後(後)の(丹)後(後)の(丹)後(後)の(丹)後(後)の

伝(伝)

伝(伝)の(伝)の(伝)の(伝)の(伝)の

鞆(鞆)武(武)虎(虎)籠(籠)

あ(あ)り(り)の(の)心(心)さ(さ)わ(わ)か(か)め(め)

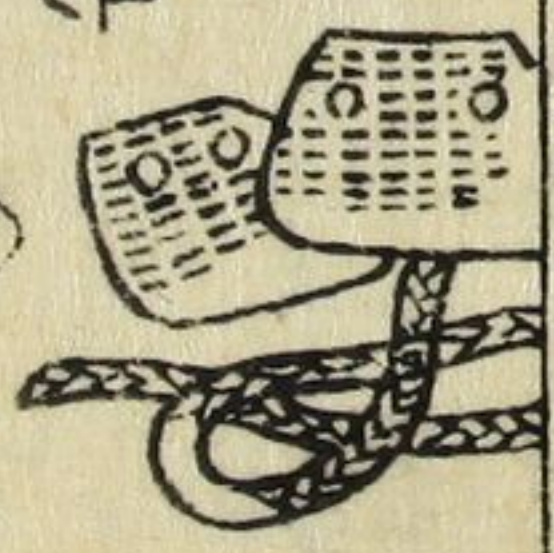


依(依)後(後)出(出)行(行)掛(掛)切(切)

依(依)後(後)出(出)行(行)掛(掛)切(切)の(依)後(後)出(出)行(行)掛(掛)切(切)の(依)後(後)出(出)行(行)掛(掛)切(切)

付(付)伴(伴)縁(縁)差(差)彦(彦)濃(濃)波(波)取(取)方(方)

つ(つ)け(け)い(い)よ(よ)ま(ま)さ(さ)さ(さ)な(な)き(き)あ(あ)ん(ん)さ(さ)



同(同)根(根)

同(同)根(根)の(同)根(根)の(同)根(根)の(同)根(根)の(同)根(根)の

幾(幾)指(指)扇(扇)移(移)系(系)使(使)取(取)方(方)

い(い)の(の)こ(こ)ま(ま)



出(出)雲(雲)織(織)

出(出)雲(雲)織(織)の(出)雲(雲)織(織)の(出)雲(雲)織(織)の(出)雲(雲)織(織)の(出)雲(雲)織(織)の

甲(甲)斐(斐)豹(豹)

鞋(鞋)の(の)い(い)ま(ま)に(に)あ(あ)る(る)あ(あ)ら(ら)わ(わ)か(か)



長(長)門(門)身(身)を(を)分(分)給(給)使(使)伴(伴)

長(長)門(門)身(身)を(を)分(分)給(給)使(使)伴(伴)の(長)門(門)身(身)を(を)分(分)給(給)使(使)伴(伴)の(長)門(門)身(身)を(を)分(分)給(給)使(使)伴(伴)の

後越好塩 後越好塩 後越好塩



周防 周防 周防

能迫の朝彦 能迫の朝彦 能迫の朝彦



本佐枝木 本佐枝木 本佐枝木

安藝の杉 安藝の杉 安藝の杉



河内鰻 河内鰻 河内鰻

後酒和果 後酒和果 後酒和果



長後権掌肉 長後権掌肉 長後権掌肉

粟 粟 粟



宇賀比布松浦 宇賀比布松浦 宇賀比布松浦

薩摩漆 薩摩漆 薩摩漆

孫持如雲 孫持如雲 孫持如雲



交易物 交易物 交易物

之利河部 之利河部 之利河部



十二代のおごん唐一ゆひ一木下お祭よむむさうの北まきくいの甲乙人



ごまうぶ せうりふしてうらむらあんせしめふ

中願を焼而甲乙人合富



甲乙人乙の積民との合は内を焼ふく人々を富へ

有正飛家風身者各



上下已

他家風もあつた上下たててうらそく林

めうへあくのいせ

神妙なる有



中下向有言

あんなあうありのそぎあつて

せうりふしてうらむらあんせしめふ

後秋酒傳進出逢まか若くも

きうあけんとがうり

あつたあうあつた

あつたあうあつた

行十日

津勢は津家



津家の人あまの孫小倉若王の子巨長津家

進上

糸女心殿

うねめのうまどの

あつたあうあつた

良久福面得秘壽如

あつたあうあつた

竹日

あつたあうあつた

あつたあうあつた

あつたあうあつた

被^ひ後^ご秀^{しゆ}外^{がい}



非^ひ面^{めん}後^ご更^{さら}之^し

附^つ之^し 併^へ期^き奉^{ほう}令^{れい}



折^せ笑^{せう}奉^{ほう}令^{れい}

下^げ向^{かう}之^し 大^{だい}名^な



言^{こと}家^け之^し 人^{ひと}之^し 後^ご

決^{けつ}後^ご之^し 折^せ笑^{せう}奉^{ほう}令^{れい}



内^{うち}之^し 其^{その} 後^ご

折^せ第^{だい}草^{そう}亭^{てい} 自^じ 笑^{せう}奉^{ほう}令^{れい}



貨^か真^ま

又^{また}教^{きやう}之^し 武^ぶ也^や



名^な額^{がく}之^し 扶^す杖^{じやう} 樂^{がく}

被^ひ助^{すけ}奉^{ほう}令^{れい}



被^ひ助^{すけ}奉^{ほう}令^{れい}

折^せ第^{だい}草^{そう}亭^{てい} 自^じ 笑^{せう}奉^{ほう}令^{れい}



鹿^か之^し 客^{きゃく}人^{にん}

くんとりのわらあし
修改くす亮



とら下のけい
車本燈管

あうまうのりりわうせん
用章くくん近遠



あうまうのりりわうせん
筑世を

あうまうのりりわうせん
石守い燈幕同幕津



あうまうのりりわうせん
言書

あうまうのりりわうせん
坂を深坂先走



あうまうのりりわうせん
屏風

あうまうのりりわうせん
修翠簾



あうまうのりりわうせん
彼意借もい文

あうまうのりりわうせん
て送茶くい世打徳



あうまうのりりわうせん
令

あうまうのりりわうせん
色標を流輝



あうまうのりりわうせん
茶標真多標

あうまうのりりわうせん
勢勢益入



あうまうのりりわうせん
食子墨筆流燭

あうまうのりりわうせん

あうまうのりりわうせん

鉄物以下進没



山 惠以借預

者て進没者也

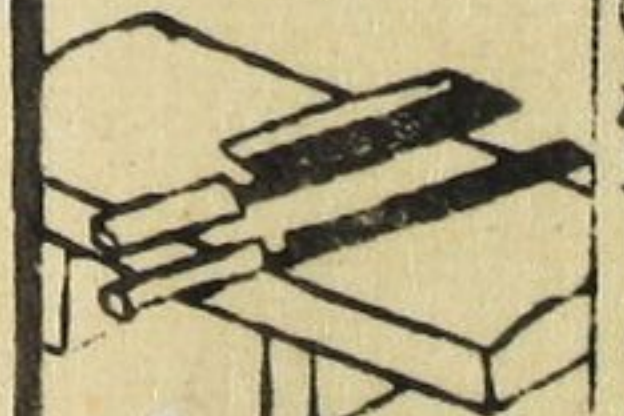


家人老老家

來るに保時改書骨田冬人

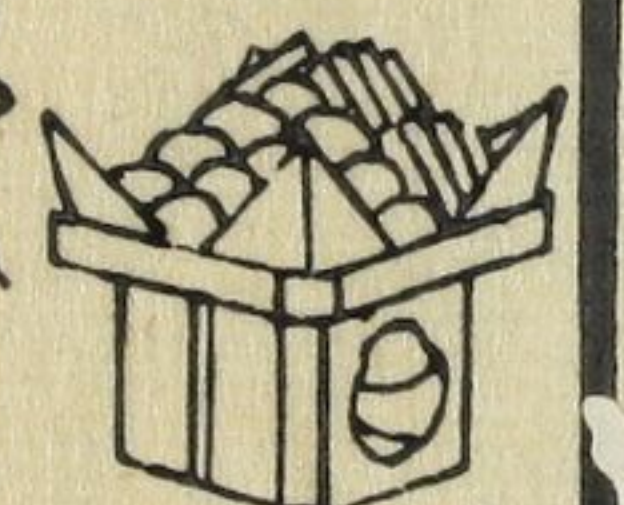


既保勤多科は危下



或屋お

不故實儻者



一兩筆下令

雇給也万幸な成毎思現



敢必名之被弃指併



切系拜

不真得々





舟舟

舟舟

進上 虎人の修殿 沖波

不審子あり処を尋ねて見



父重隆將



以後直を御回

とんを中



作客先臨

博奔を



身を止む清利

具名を將



進

焼素人辨

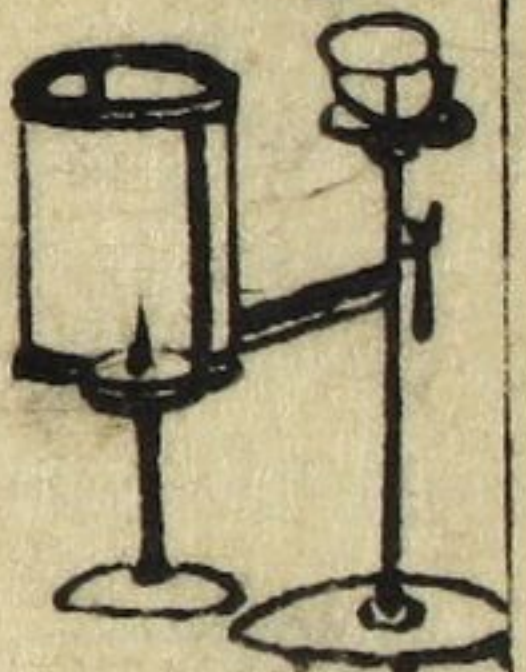


焼燭素人辨

の地

の地

のせちりもんふことあるあり
裁返文の進之



のうまいまのさつ
能率の登

干製糖がしのみあつたまうり
まうりさうり
練糖茶葉味方なる油醜



味方茶

初級料海月風斗地

梅干

刺物干製茶地



干製茶

東海海味干製茶



海味干製茶

王座魚瓶鬼尻鴨鱈



雲雀

水考山考一書



山水考

干納尾作



楚刺糖漬

たうり一書八頃人存二函を

度訓繪抄

四十一

五言詩

魚のまじりまのしわづけ
鱈鮓鮓鮓鮓



干考干鬼干

干考干鬼干

康了に豚



灰燼は紅雪程

灰燼は紅雪程

波の根を取るる



蟹味湯

蟹味湯

海老揚



雞揚鳥賊音標

雞揚鳥賊音標

栄海は冷踏交雜喉氷泉



本買値取ん素令家まみ



蟹

民皇と事いそと給後者也や謹そ



八月日



大突行啓天江

大突行啓天江

五言詩

五言詩

度言然也

方系進友

神報



世間を後運く物若



其は忘

密々難決



不憂々むと抄

世上既成静強も方



為務

修道進



秋企来入々処深

殺方送々山徒



日葉方第

乘法滅復精々鬼雲



令

博記千國々山城



海賊強

三ノ目

三ノ目

せんふとうのとことう
霜二逆夜業



せいのちゆうまうふ
今後乃今

らるひよりひこのまひん
奪最令奴丹



つゆわいどまん
追捕去民

のちうくささきとさまてん
後定利取旅人令夜業々向

あふちうなるつおとうの
為律伐追討人乃軍



よてう
依被

えんかうせさうりぐふ
獲向方く



かうけの
南家々一様同

えぞいさひのせん
馳向彼数湯



えきやくし
彼却殊郭追残

とらうそこの
不栲佬々城徒



えんけい
尋園要

くいでうんく
害之々園法



まへう
近日欲令進

ちり の ところ



このあつてのせんたうふぶぐのり
此間致極其業

馬歩下及負米の沈



きまての
看控

渡者出版を果



ハ業督等

ハ助成其老



ハ沈ゆ之今度

ハきそく為家ノ肩目



ハ一門

先途之ノ業人ノ後以修得令

然有令為後



ハ若存令

はは之再令之時多入也



つくあるんしやうらんけのえげうしよ
於津乃軍家清が書



げん
度訓の

くろのうくううあめんあろ
密くよ下於清規



あん
清規等

のこらあせいせきふらせいせき
之際内蔵亦威



いちぞくせむらう
一族令一

まのあ
撰者之



ちうひん
且依然四之忠信

くろあひんちうのせんしん
且於軍忠清源



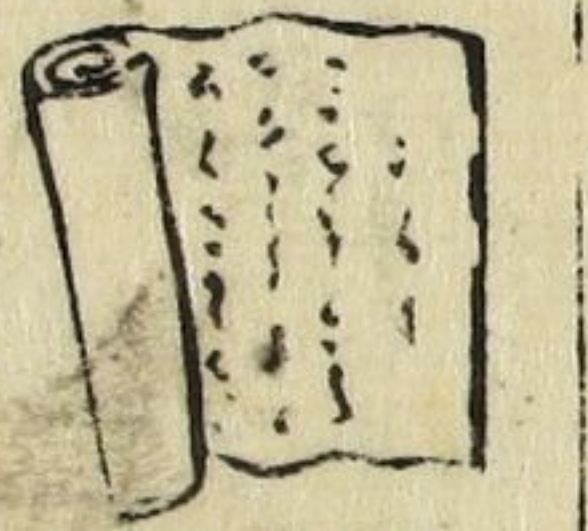
ちん
依然明忠

あひんちうのせんしん
於清代相傳之令願



いちぞく
一取類

あひんちうのせんしん
今之也



ちん
不亦相遠也

あひんちうのせんしん
學之願也



ちん
不強公庶也

係作五許客心後之

とらたといふあり

りくうらあぬ

有七月

勅勅由波信小所



禮上

後全おむ殿

きんぶらう

ごとうひやうふのぢやうどの

あまき

とらたといふあり

ごとうひやうふのぢやうどの

あまき

後今欲進後者惟を又度而歌實

後今欲進後者惟を又度而歌實

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

依い之條

依い之條



相叶幸守者之

相叶幸守者之

殊以存依い

殊以存依い



抑致場古進

抑致場古進

獲之車

獲之車



夜本塔西尾守

夜本塔西尾守

也編有院宣

也編有院宣



倉之欲式

倉之欲式

令旨官者宣々

大納言の宣旨の宣旨あり



非今

非今

指南大行軍

三月の途次ありおらんけの御ち



副將軍

書信

書信



又非

後利

後利



將軍

出祇事

出祇事



御獲也

御獲也



見規

也

也



為後

為後



漫

漫

被後之玉法竊盜也



身被國者負以負之能黨之玉被捕

也九



唐公捕之軍忠考一

軍法之高也



能くて

用意也



次其負之軍忠考

彼其系系萌其系



好其威

累系復



在軍其系復卷

唐後小極之軍法



在虎目

洞元振舞目



洞元振舞目

ついでに...



...

南早自然流防匠方白甲

あてありあろうらうらあ...



各一か同色袖系

あひくひと...



白蓋襦

為さ首波發

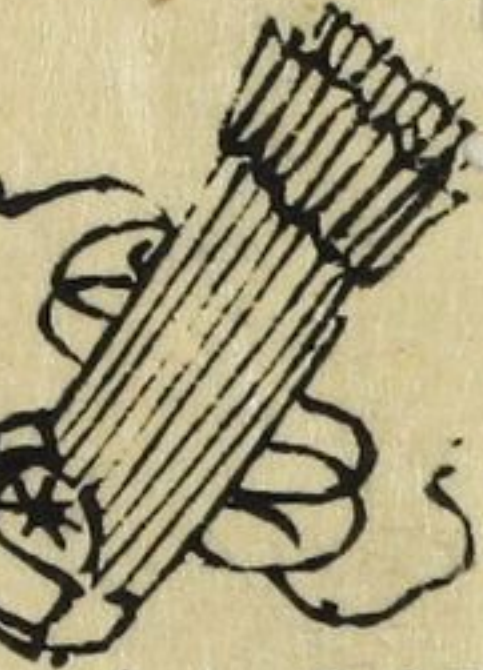
あて...



波發逆頰

籠胡録

...



石打心大筋切舟

毒心流天竺新羽

...



勢本

白考虎籠

...



勢羽後勢羽

降矢各貴具標内らと

...



本

重なる漆を漆糸裏木也

加括

此を漆糸と稱すをわらふと云う有るを漆糸と云ふ者も有る

中々明のち

巻泥たたり

兵庫線考類

此は土のぬれをちり

兵庫のちり

皆形物

深澤兵衛今世たす

此は今の形物

此は深澤の形物

白柄長方肉を律

馬と連

此は長方肉を律

此は馬と連

後葺毛

梅子栗毛馬を鶴毛

此は後葺毛

此は梅子栗毛馬を鶴毛

黒毛毛糟毛

麻毛河本毛馬

此は黒毛毛糟毛

此は麻毛河本毛馬

鶯髪及白月類葺毛及雪踏考

皆相割今人

阿比令後痛

此は相割今人

此は阿比令後痛

鹿鞍白橋



鹿の鞍に白の橋を架けたるものなり

金比地境白鹿皮



大形鞍

細筋の白鹿皮



豹は鹿皮鞍

身後尻には鹿子切付水豹



鹿

皮泥障



鞍は鹿皮の泥障

身を送る共復木鞍替



鞍

袋の鹿皮鞍替



鹿皮

油草の鹿皮鞍替



鹿皮

をくま



實而彼存知歎

然やい致を捕



まきま

夜は後



陣後軍

也於一命



彼得

然者我澄判状

後をくま及下

後



大略

伝奉



期

きりんのののわらわらふもろち
てんごわね一紅葉重

きりんのののわらわらふもろち
てんごわね一紅葉重



揚裏

ついでにうららうくの
ついでにうららうくの

ついでにうららうくの
ついでにうららうくの



節小袖陽子

袋袴

袋袴



単衣法紅梅袋袴好

裳唐履袋袴好

裳唐履袋袴好



唐指袴葉

比叢葉

比叢葉



初練着法深文袴

終着月夜色深村緞

終着月夜色深村緞



浅

黄小袖同製帯

黄小袖同製帯



游給る袋

眼箱

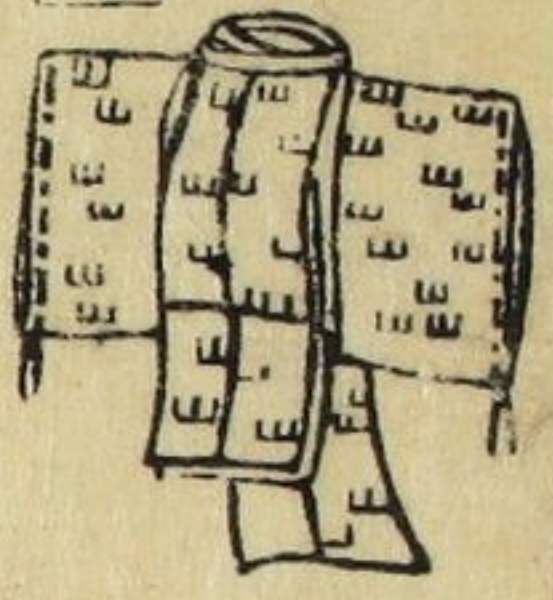
眼箱



冠表衣乃早出衣

目録七十七の

くりぎぬ
袴



え
不
ひらき
おんち
おんち
為 袴子
並
大
口
大

くはすおのちの大袴ふすくくはすおのちの大袴ふすくくはすおのちの大袴ふすく

くさび
こち
あだ
あこ
こ
こ
こ
帷子

帷子とははた織りて春の日に着るものなり

えびく
や
襦
明

あちちのちのち

あふ
あふ
あふ
あふ
蓑

あふとははた織りて春の日に着るものなり



あふ
あふ
あふ
あふ
房
兼
牛
狗

あふとははた織りて春の日に着るものなり

あふ
あふ
あふ
あふ
足

あふとははた織りて春の日に着るものなり



あふ
あふ
あふ
あふ
足

あふとははた織りて春の日に着るものなり

